

第1回西脇知事と行き活きトークin大山崎町

日時：平成30年8月4日（土）15:00～16:30

場所：大山崎ふるさとセンター

- 司会 それでは、これより意見交換の時間に入らせていただきます。  
初めに本日の参加者の皆様について、私のほうから御紹介申し上げます。  
コムズママ 代表、木戸有佳子（きどゆかこ）さんです。
- 木戸有佳子 よろしくお願ひします。
- 司会 大山崎小学校区子ども地域安全見守り隊 代表、小泉伸吾（こいずみしんご）さんです。
- 小泉伸吾 小泉です。よろしくお願ひします。
- 司会 先ほど実演をしてくださりました大山崎中学校フェンシングクラブ 顧問、富岡菜採（とみおかなつみ）先生です。
- 富岡菜採 よろしくお願ひします。
- 司会 大山崎町青少年健全育成協議会 会長、江下傳明（えしたでんめい）さんです。
- 江下傳明 よろしくお願ひします。
- 司会 そして、ダイハツ工業株式会社 京都工場 ダイハツ労働組合 京都支部長、桂雅彦（かつらまさひこ）さんです。
- 桂雅彦 よろしくお願ひします。
- 司会 そして、真ん中のテーブルをご覧ください。大山崎町、山本圭一（やまもとけいいち）町長です。
- 山本町長 本日は、ありがとうございます。
- 司会 そして、京都府知事、西脇隆俊（にしわきたかとし）でございます。
- 西脇知事 今日は、どうもありがとうございます。
- 司会 そして、今日は、京都府議会議員の先生にもお越しいただいております。堤淳太（つつみじゅんた）様です。
- 堤純太 こんにちは。
- 司会 ありがとうございます。  
そして大山崎町議会議員の皆様です。  
それでは、まず、西脇知事から、今回の行き活きトーク開催に当たり、一言、御挨拶をさせていただきます。
- 西脇知事 どうも皆様、こんにちは。御紹介いただきました西脇でございます。  
まず初めに、本題に入ります前に、先般の大阪北部地震で負傷された方、また、住家の被害が非常に多く出ております。それから御承知のように、7月豪雨では、府内でも5名

の方の尊い命が奪われましたし、住家の被害たくさん出ております。改めまして、亡くなられた皆様に対しまして哀悼の意を表しますとともに、心から御冥福をお祈り申し上げたいと思います。また、被災された多くの皆様に、衷心よりお見舞いを申し上げたいと思います。被災者の方が一日も早く通常の生活に戻れるように、復旧復興に全力で努力してまいりたいと思っております。

今日は、命の危険とも言われております猛暑の中、御来場いただきましたことをまずもって感謝したいと思います。それから、堤淳太先生をはじめ大山崎町議会の皆様、御参加いただきまして本当にありがとうございます。

この「行き活きトーク」の横断幕のイラスト、これちょっと私に似てへんの違うかな。そこはちょっと置いといて、私が京都府内のいろんなところに出かけて行って、現場を体験したり、府民の皆さんの御意見をお伺いするという事です。何せこれ、6月補正予算で予算化いたしましたので、今日が第1回でございます。町長さんにぜひ会いたいと思ひまして、第1回として大山崎町を選ばせていただきました。開催に至りますまでに、関係の方にも非常に御尽力いただきました。心から感謝申し上げます。

今日のテーマは、「地域づくりはひとづくりから」ということで、関係の団体、企業の皆様に御参加いただいております。どうか、京都府政の今後の運営の参考になりますように、忌憚ない御意見を賜りますことをお願いいたしまして、私からの御挨拶とさせていただきます。

今日は、どうもよろしく願いいたします。

○司会 西脇隆俊京都府知事でございます。

続きまして、大山崎町長、山本圭一様、お願いいたします。

○山本町長 皆様、改めましてこんにちは。ただいま御紹介いただきました大山崎町長の山本でございます。

本日は本当に暑い中、また、この時間帯が一番暑い中で、クーラーも一応、ガンガンに効かせているんですけども、今日は知事にお会いしたいという熱気で、本当に暑い中ではありますけども、たくさんお集まりいただき、ありがとうございます。

また、平素は、町行政の推進に格別な御理解、御協力を賜っておりますことも、この場をお借りいたしまして、厚く御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

さて本日は、西脇知事と行き活きトークを「地域づくりはひとづくりから」というテーマで開催をさせていただきました。先ほど知事の方からお話しありましたけれども、第1回目をこの大山崎町でしていただいたということは、本当に光栄に思っております。

今日は、地域づくりをどのような形でしていくのかということも含めてお話しできればなと思っておりますし、大山崎町としての地域のポテンシャル、大山崎町の強みということもたくさんあると思っております。

人口減少の社会に突入しており、2040年には20%、この大山崎町でも人口が減るのではないと言われてます。そういったネガティブな話ではなくて、今、この大山崎町がどのような立場であって、どのような資源があるのか、生かされるものがあるのか、逆の発想で、小さな町でもたくさんの強みがあるんだというような形で、これからのまちづくりをしていければなと思っております。

そういった意味からしましても、小さい町だからこそ、地域連携が特に大事だと思っております。そういう話が今日出るのではないかなと期待をしております。これから京都府や皆さんとともに、この小さな町を生かしながら地域連携ができればなと思っておりますので、本日はよろしく願いしたいと思えます。

本日は、お集まりいただき、ありがとうございます。

○司会 山本圭一大山崎町長でございました。

それでは、早速、パネリストの皆様から順番にお話を伺ってまいります。恐れ入りますが、時間も限られておりますので、お一人3分程度ということにさせていただいております。誠に申しわけございません。

それぞれ自己紹介をしていただき、現在の活動の状況などをお話しいたします。トップバッターは、コムズママ代表、木戸有佳子さんです。よろしく願いいたします。

○木戸有佳子 こんにちは。座ったままで失礼いたします。大山崎町子育て母の会、代表の木戸です。

まず、自己紹介からさせていただきます。こんなところでお話をさせてもらってるんですけども、私はいたって普通の主婦です。主人は京都市内の会社員、子供は4人います。一番上が6年生の息子で、あと4年生と1年生の娘、一番下が去年のクリスマスイブに生まれた現在7カ月の息子です。溺愛中です。今日は、私が子育てをしながらやってきたことをちょっとお話ししたいと思います。

コムズママの設立は2010年です。主な活動としては、名神高速道路の高架下でのフリーマーケット開催です。今回は9月に開催されるんですけども、第36回目になります。出店は60ブースを予定しています。

登録会員数は、現在400名ほどになっています。大山崎町、長岡京市、あとは向日市、京都市、大阪府の島本町、高槻市などから出店されています。出店の条件はママであることのみで、元ママさんやプレママさんも出店していただけます。お買い物は誰でも大丈夫です。運営は私、木戸と吉田の2名で行っており、当日の駐車場整理として他にママさん4人にお手伝いをいただいています。

参考までに、今までの活動記録とか出店の様子の写真を資料としてお渡ししましたので、よろしければご覧ください。

設立のきっかけなんですけれども、お手元の紙に結構いろいろ書いたんですけども、

要するに、私の子育てが一段落して自分で何かしてみようと思えたことです。私はママ市をしながら下の2人の子供を妊娠・出産してるんですけども、子育てに追われている毎日でも他の何かに熱中することは、私にとってもリフレッシュになりました。

設立から1年後、第8回のママ市なんですが、その段階で出店数が60ブースになりました。最初、橋桁1つ分で始まったんですけども、ママさんたちのロコミの力は結構すごくて、多目的広場の通路が出店のブースで全部埋まるような大規模なものになりました。出店数が増えてくると、高速道路の高架下というロケーションで逆によかったなと思えることが増えてきました。雨でも開催できますし、周りがフェンスでぐるりと囲まれていますので、子供が買い物中に走り回っても大丈夫です。あと、駐車スペースが結構たくさんとれました。

しかし、来場者がそれ以上に増加しまして、その広い駐車場でもあふれることになりました。外注で駐車場整理をお願いしたんですけども、なかなかうまくいかず、知り合いの手が空いてるママさんをお願いしました。そうするとママさんたちの仲間意識からか、苦情が全く無くなりました。やっぱり小さい町だから、顔見知りがつながってアットホームなところが大山崎町の魅力だと思います。

去年、一昨年は、町の子育て支援センターに、出店料の一部でおもちゃなどを寄贈させていただきました。今年も引き続き、大山崎町の子育てを応援できたらと思っています。

現在までのコムズママの活動の経緯は以上です。

○司会 ありがとうございます。頑張ってもらってるんですね。ママ市も楽しそうです。ありがとうございます。

次に、大山崎小学校区子ども地域安全見守り隊の小泉伸吾さんの御活躍を伺います。お願いいたします。

○小泉伸吾 大山崎小学校区子ども地域安全見守り隊の小泉と申します。

まず、自己紹介なんですけども、私は大山崎町で専業農家で農業を営んでおります。野菜、お米、タケノコなどをつくり、それを直接お店に販売するという形で活動しております。そして、毎月10日なんですけども、JRの山崎の駅前で十日市というのと、すてき発見市という手づくり市を行ってまして野菜の販売をしております。

まず、地域安全見守り隊の話をさせていただきます。平成18年にPTAを中心に発足しています。子供が置かれている状況としては、大山崎インターチェンジが完成して、その後、京滋バイパスなど、ジャンクションも整備されたおかげで、非常に交通の量が増えました。しかし、通学路などは、まだまだ昔の道が多くて道幅が狭い状況で、交通量だけが増えるという状況になって、非常に通学路が危険な状況になりました。そのときに、特定の人が同じ場所に立って子供の安全を見守るというような、非常に重荷になるような活動ではなくて、保護者の方たちや地域の方たちが、例えば買い物に行くときとか、朝パートに行く

ときとか、そういうちょっと外に出るときに、みんなで子供を見守っていくという形、それが地域安全見守り隊という形になっております。

大山崎町というのは京都府の中でも町がすごく小さい、コンパクトな町です。ですので、保護者同士もすごく顔がわかるような形になってますので、保護者、大人の方たちがみんなで子供を見守っていくという活動をしております。それからずっと、通学とかそういうところでの事故等も起こっておりませんので、活動としては成功してるのかなと思っております。

以上です。

○司会 ありがとうございます。住民みんなで、全体で子供を守っているというのは、本当心強いですね。ありがとうございました。

さて次に、先ほど西脇知事にも体験していただきましたフェンシングの指導をされている富岡菜採先生でございます。ここ大山崎町はフェンシングの町としても有名ですが、大山崎中学校では、どのようなクラブ活動が行われているのでしょうか、お願いいたします。

○富岡菜採 失礼します。富岡菜採と申します。大山崎中学校フェンシング部の顧問をやっています。

私自身は、大阪で小学校からずっとフェンシングをやってきております。学生時代はユニバーシアードに出場したりというのが現役時代の活動です。大山崎中学校には7年ほど前に赴任しまして、そこから中学校のフェンシング部を見ています。

私が小さいころから大山崎町体育館で大会が開催されており、よく来させていただいていました。国体以降、大山崎町体育館を拠点にさまざまな大会が行われて、全国からフェンシングの選手が集いますし、京都フューチャーフェンシングクラブがあって、地域スポーツとして根づいています。

最近では、京都府の強化プログラムで、京都きっずというのがあり、私も育成に携わってるんですが、その子供たちも大山崎町体育館を借りて、そこを拠点に活動しています。他にも大山崎小学校3年生では、全員がフェンシング体験をします。ですので、この小中学生は一度は剣を握ったことがあり、非常に誇れることではないかなと思っております。

また、中学校には京都府下の公立で唯一のフェンシング部があります。中学校フェンシング部の具体的な活動としましては、大山崎町のそうした地域との連携であったり、小学校で体験できるというような連携を背景としています。小学校でやったことあって楽しかったからフェンシング部に入りたいとか、フューチャーでやってもっと強くなりたいという人まで、初心者からトップを目指す選手まで活動しています。

また、近くに乙訓高校、ここにはオリンピックの先生がおられるんですけども、毎週そこ合同練習をしたり、京都きっずと練習会をしたりしながら、地域や小中高が連携しながら非常に強化が進んでいる現状です。

今、インターハイが愛知県で行われているんですけども、大山崎小学校、大山崎中学校から乙訓高校へ行った子供たち4人が出場してまして、今日、エペ個人が行われまして、寺山さんが2位になっています。全国2位です。

また、国民体育大会の選手にも、大山崎中学校を卒業して乙訓高校へ行った選手が3名選ばれてまして、一緒に活動してるきっずの子も3名選ばれるというような形で、この地域を生かした強化が進められています。

以上です。

○司会 ありがとうございます。本当に小さいころから体験するってとても大切なんですね。

先ほどフェンシングを体験されました知事は、いかがでしたか。

○西脇知事 はい。その前に、私が言うのも何ですけど、今、能勢昌博（のせまさひろ）先生、京都府議が来られましたので御紹介します。能勢先生でございます。

○司会 ありがとうございます。すみません、知事に司会もやっていただきました。

○西脇知事 フェンシングですが、私、さっき初めて剣を握ったんですよ。小学校3年生がみんな握ってるってすごいですよね。今はどうかかわからないんですけど、静岡県が小・中学生が全員、サッカーをやるらしいんですよ。もちろん全員が向いてるわけじゃないんで、だんだん淘汰されていくんですけど、ものすごく裾野が広がってサッカーが強くなったという話も聞いたことがあるんで、非常にいいことだなと思いました。

ただ、私も選挙のために京都へ帰って、大山崎町に演説会に来て初めてフェンシングが盛んだということを知ったんですよ。正直言いましたけど。やっぱり知名度をね、もうちょっと上げないと。

私は中学・高校時代、野球をやってたんですけど、いろんなスポーツって裾野が広いほうがいい。でも、逆に1名でも有名な選手がいたらフェンシングの知名度が一気に上がるということもある。これは太田雄貴（おおたゆうき）選手だと思うんですけど、そういうエリート選手を育てるということもあります。どちらにしても、大山崎町だけではもったいないので、京都府全体がフェンシングのメッカになるようなこととかも、いろいろやっていきたいと思う点がひとつ。それから先ほど中学校の生徒さんたちが話されたことで、やってよかった感想として「礼儀」という話がございました。私も中学、高校野球部で非常に素晴らしい指導者にめぐり会えたんですけど、中1から高3まで同じ監督で、3つだけずっと言われてたんですよ。

「挨拶をきちんとすること」「時間厳守をすること」「必ず高校3年生の夏まで野球を続けること」。この3つを言われてまして、やっぱりスポーツというのは、その競技が強くなるために、それがおもしろいと思うのが入り口だし、興味がなかったらつらい練習も続けられへんのですけど、礼儀とか、団体競技であればチームワークを学ぶとか、その後の人生を生きていく上で重要な、私は「心の体幹」とか言ってるんですけど、そういうも

のができると思うんです。もしここでフェンシングが根づいてるんであれば、ぜひ続けてもらいたいし、もうちょっと知名度上げる、私も努力せなあきませんけれども、よろしくお願ひしたいと思います。

感想は以上です。

○司会 ありがとうございます。

さて、次にお話を伺います江下さんですが、前大山崎町長でいらっしゃいます。今回は大山崎町青少年健全育成協議会の会長というお立場でお話を伺います。江下傳明さん、お願ひいたします。

○江下傳明 今、紹介ありました江下です。今、子供たちの健全育成をやってるんですけども、健全育成というよりも、地域の環境浄化、親子で触れ合う、そういう取り組みをここのずっとやっております。

具体的に言いますと、大山崎町は十数年前は有害図書の自動販売機が、国道171号線のところに大変多くて、京都府一、1カ所に約60台ぐらいあったんですね。それがここ数年で4台しかなくなったということで、長年の取り組みが実を結んできたところなんです。

それから、中学生に毎年協力をいただいて、町内のクリーン作戦をさせていただいております。顧問の先生の協力を得て、中学生の各クラブ100人程度で毎年やっていただいております。

それからもう一つは、地元天王山の有名な孟宗竹がたくさんありますので、それを切ってきて器や箸をつくって親子で流しそうめんをしています。毎年大体、100人から150人ぐらいの親子が流しそうめんをやりながら親子の触れ合いをやっている。こういうふうにして、子供たちの健全育成、特に環境浄化と、それから家庭の大切さの啓発、こういうものを推進をさせていただいております。

以上です。

○司会 ありがとうございます。クリーン作戦、そして流しそうめん、本当にいろいろな形で活動されてるんですね。ありがとうございました。

続きまして、ここ大山崎町に工場があります。ダイハツ工業株式会社京都工場ダイハツ労働組合京都支部長の桂雅彦さんから、地元大山崎町の皆さんとの交流事業についてお話を伺います。お願ひします。

○桂雅彦 皆さん、こんにちは。ダイハツ工業株式会社京都工場労働組合の支部長をやっています桂といいます。よろしくお願ひいたします。

ダイハツといえば皆さん、そこそこ御存じいただけてるんじゃないかなと思いますけども、大阪に1907年、今から111年前にできた、とても古い自動車の工場「大阪発動機」からきてます。大山崎町の中で、171号線、ちょうど大山崎インターの辺りに京都工場があります。トヨタからの受託車を作ったり、ダイハツの軽自動車「ムーヴ」を作ったりし

ております。

京都工場は1975年、今から約45年前に建ちました。現在は、2分程度で1台の車を製造しています。そして、コマーシャルでもやっています「Light you up」、お客様一人一人に輝いてもらう、また従業員一人一人も輝いていく、そしてそれらを喜びにかえていくという言葉掲げて、ものづくりとコトづくりに努めて、地域の皆さんとの触れ合いを進めています。

また、技術とか、ものづくりの大切さを継承していかなければならないということで、人材育成にも多くの力を注いでいます。技能競技会をダイハツ工業全体で行っていて、プレス、ボディ塗装、組み立て、品質保全部門など、日夜、練習しながら各地域の代表であるという自覚もしてもらいながら人材を育てています。

また、地域の企業として御理解いただくために、最近、地域連携にも力を入れております。大山崎の「天王山ゆひまつり」と、ダイハツ工業の敷地内でやっています「京都フェスタ」をマイクロバスでつないで楽しんでいただくというような活動も積極的に行っています。

また、先ほど江下さんも言われたように、竹林保全ボランティアに参画したり、労働組合の青年部でも今年から竹林の一角の清掃、伐採ボランティアをやらせていただいています。ちょっと今、暑くて1時間ももたないんですけども、何とか引き続いて活動していきたいなと思っています。お祭りの会場で車を展示させていただいたり、自動車のつくり方を小学生の方に教えたり、乙訓地区の消火技術競技会へも参加していて、地域の皆様にダイハツがあることを知ってもらう活動を多く取り入れてやっております。

また、ものづくり体験教室ということで、小学校5年生を中心に、ものづくりを教えに小学校に出前授業をさせていただいています。今年は大山崎の小学校を2つ行かせてもらうのと、長岡京市にも行かせてもらいます。ものづくりに携わって地域を支えていこうという人が少なくなってきましたので、ダイハツは大山崎にもあるんやから、一緒にダイハツを盛り上げていきたい、ダイハツの車をつくりたいというような人を1人でも多くつくってきたいと思っています。今後とも御理解をよろしくお願いします。

以上です。

○司会 ありがとうございます。大山崎町に工場がある企業として、地元の方との交流を非常に大事にされてるんだなということがよくわかりました。ありがとうございます。

それでは、ここで、参加者の皆さんの御発言も一巡いたしましたので、大山崎町でのさまざまな人づくりについて、山本町長と西脇知事から一言ずついただきたいと思います。

まず、山本町長、お願いいたします。

○山本町長 限られた時間で一言というような話なんですけども、やはり皆さん本当にそれぞれの活動をしていただいております。先ほど冒頭にもお話ししましたが、小さな町、



コンパクトなので、向こう三軒両隣、近所の方々みんなが知ってるような、まちづくりを目指したいと思っております。

その中で、いろいろ皆さんに活動していただいているわけなんですけども、コムズママさんにおかれましては、ママ市をされて、PRにもつながってます。本当に人気があって、遠方から来ていただいたり、親御さんのコミュニケーションの場、親学びの場でもあるという意味では、大山崎町にとっても、すごくありがたい活動をしていただいているなと思っております。

見守り隊に関しましても、地域が1つになれば子供の学力にもつながるというように思いで、積極的に防犯活動等をしていただいています。先日、大阪北部地震の際にも、朝でしたので、子供を学校から帰すときに、やっぱり子供たちだけでは危険なので、PTAとか見守り隊に連絡させていただいて見守りをしていただきました。いろんな意味で心強い存在で、地域づくりに関与していただいていると思っております。

フェンシングは、昭和63年の京都国体以来、大山崎町はフェンシングの町でやっておりますけども、今、知事もおっしゃってましたように、フェンシングの知名度は、なかなかないのかもしれないかもしれません。

でも、公益社団法人日本フェンシング協会の太田雄貴会長は、大山崎町のフューチャーで活動されてましたので、この大山崎町もフェンシングの発祥の地だとおっしゃっていただいています。この大山崎町のために、フェンシングで何か役に立つことがあれば、いつでも言ってくださいと。ただ、会長なので大げさなことではできませんけど、という話もあります。公立の中学校には、フェンシングクラブチームはなかなかないですけども、大山崎町ではしっかりとそれを守っていこうと思いますし、乙訓高校のフェンシングクラブチームでは、オリンピックの方が指導していただいています。京都が一体となってフェンシングで盛り上がれば、京都の知名度、大山崎の知名度が上がって、PRにも貢献できるのではないかなと思っております。

青少年健全育成協議会では、江下会長が、前町長として本当に子育てに関心を持って取り組んでいただいております。

今年度、小学校のトイレの改修が全て終わります。それについては、江下前町長も積極的に取り組まれましたし、今、青少年健全育成協議会の会長として清掃ボランティアをしていただいているのはすごくありがたいし、親子の体験教室もやっていただいているのも本当に感謝申し上げたいと思います。

また、ダイハツさんに関しましても、車の生産という企業のこととは別に、地域連携という話をさせていただきます。「ゆひまつり」にも出ていただいておりますし、天王山の森林ボランティアにも今年から入っていただけるという話です。地域連携、すごくありがたいです。

やはり大山崎町の中にダイハツ工業があり、最初から最後まで大山崎町で車をつくっているというのは、本当にすごいことだと思います。子どもたちにもものづくりに関心を持っていただけたらなというような思いで、ダイハツさんともしっかりと連携をしながら、今後のまちづくりができれば、と思っております。

いずれにしましても、やはり地域づくり、人育てというのは、本当に大事だと思っておりますので、今後、知事とも一緒に、皆さんとともに地域連携していければなと思っております。

○司会 ありがとうございます。

それでは、西脇知事からもお願いいたします。

○西脇知事 コムズママの話について、後で2巡目の御発言のときに教えて欲しいのですが、先日、八幡市での広聴事業で、子育て中のママさんから、お母さんの心のケアが圧倒的に重要だという話をお聞きしました。お母さんの悩みがなくなったら子供の熱が下がったという、ほんまかどうかわからへんですけど、それぐらい、ママさんの心理的影響が子供に伝わるというようなことです。なるべく意図的にママさん同士が会う機会をつくらないと悩みの共有もできないと聞いたので、ぜひやってもらいたいです。1点だけ、後で教えて欲しいんですけど、高槻市とか島本町から来はるといのは、あくまでロコミなんじゃないかな。

○木戸有佳子 そうですね、島本町は広報に載せてもらってるんです。ただ、高槻は全くチラシも置いてませんし、何もしてないので、多分ロコミだと思います。

○西脇知事 私が初登庁のときにいくつか言った中で、「連携にこだわる」ように職員に言いました。もちろんこれは、縦割り排除もなんですけど、選挙中にもずっと言ったことは、特に府域の隣接してるところの府県との連携、もちろん市町村同士の連携についてです。今どき住民の人は、別に行政境なんか関係ないですよ。やっぱりそうやって生活をされてるので、それにこだわらないんで、町長さんに頼みたいこととか、私らに頼みたいことがあったら何でも言うてもらったらありがたいな、というのが1つです。

それから、小泉さんのところのお話ですが、交通安全で立っておられる方のイメージというのは、私が東京に住んでるとき近所では、いつも同じおじいさんやったんですよ。そやけど確かに大変は大変なんですよね。先ほど「重荷にならないように」ということだったので、どういう仕組みでローテーションがうまいこといくのかな、というのを後でまた教えていただければありがたいなと思っております。

それからフェンシング、ありがとうございます。これね、太田さんに言ったらいいですよ。町長ちょっと謙遜してはりましたけど、何か契約結んでね、もちろんお金なしですよ。例えば、一日何回か大山崎町と発言するとかですね。みんな天王山は知ってるけど、大山崎町は知らんとかあるからね。これから観光シーズンですし、2020年大河ドラマで取

り上げられるし、京都府の北から南まで観光キャンペーンもやっていこうみたいなことになってますので。知名度アップのために、それこそ太田選手に頼めばいい。私、実は昔やったことがあって、30年以上前、山形県で勤めてるときに、女優の渡辺えりさんと仲よくなりまして、委託契約の中に、これ酒飲みながらの話なんですけど、テレビ出演するたびに山形県のことをPRするようという条項を1つ入れました。そうして、なるべくなんですけれど、やってもらったことがあるんで、それ太田選手に言ったら影響力はあると思うんですけどね。テレビ出演の機会も多いので。ぜひ町長、それ言うたほうがええですよ。

それから、江下さん、親子での流しそうめんの写真を見せていただきましたが、子供さんのこともですが、人口減少で、とにかく20年後までの人口構成というのはわかってるわけですね。今生まれても二十歳になるまで20年かかるということなので。逆に言えば、青少年の健全育成は本当に大事でして、社会全体のためにも活動してもらわないといけないので、何か悩み事でもあれば、後で聞かせていただければありがたいと思います。

ダイハツ工業さん、僕、今初めて知りました、大阪発動機やからダイハツというんですね。私もダイハツさんには、昔から仕事上は関わりがございまして、工場のところの阪神高速道路の桁設置とか用地買収とかいろいろあります。企業側も、企業と地域というのが、違う存在とか離れた存在では、なかなかお互い持続可能性がなくなるという時代に来てると思います。こうやって、地域と一体となって活動してもらったら非常にありがたいので、大変かもしれませんが、経営陣を説得して、引き続き、続けていただければと思います。

私から以上です。

○司会 ありがとうございます。

それでは、パネリストの皆様から、これからの課題とか、あるいは展開などについてお話ししていただこうと思います。今度は恐れ入りますが、2分以内ということで申しわけございません。よろしく願いいたします。

それでは、コムズママ代表、木戸有佳子さんからお願いします。

○木戸有佳子 先ほど知事がお話してくださったように、子育てというのは、子供には元気な母親のほうが絶対いいと思うんです。母親が元気でいてないと、子供にも余りいい影響がないかと思います。それを踏まえて、今からのお話を聞いていただきたいと思います。

今まで35回のママ市をしてきたんですけども、母親にいい作用をもたらしてるなと感じることがあります。まず、趣味の手づくりですね。これは自分の時間を確保できて、ストレス解消になります。手づくり品の販売をすることで自己発表の場となります。あとはフリマの売り手は、思い出のものを誰かに譲ることで、自分の子供が小さかったころの話ができて、それを通して自分の育児を振り返ることができます。逆にフリマの買い手は、自分より少しだけ先輩のママさんの話が聞けます。そして何より、参加者全てに共通するのが、久しぶりにママ友と会って情報交換ができるということです。横のつながりが広が

るということだと思います。

ママ市の開催中、いろんなところでママさんたちが立ち話をしてるんですけども、私はその立ち話こそが大切じゃないかと考えています。ママがつながることで、自分だけじゃない、こんな人もいてるんだと。もう少ししたら、うちの子もこんなふうになるんじゃないかと知ることができて、気持ちが少しでも楽になるんじゃないかなと思います。

最初のころは、子供連れで買い物に来ていたママさんたちが、子供を幼稚園や保育所に入れて、または小学校に行き出して、自分は身軽に買い物とか立ち話をするようになりました。小さくなった子供服とか、手づくり品を売りに出店者になるママもいます。そして、新たにプレママさんとか、小さい赤ちゃんを連れて初めてお越しくださるママもいます。

コムズママが新しいことにチャレンジするのもいいと思うんですけども、一番大事なのは、やっぱり今ある、このいい循環を続けていくことだと思っています。そして、ママ市を、今度はパパさんたちや、おじいちゃん、おばあちゃんにも広めていって、私たちと一緒に母親の子育てを応援していただけたらと思います。

今、お話ししたことは、子育て中の母親でないと共感しにくいかもしれません。でも、少子化が進む中で、今の母親たちがどういうことを考えて、何を求めているのか知っていただけたらなと思います。そして、それをぜひ、京都府の子育て支援にも活かしていただきたいなと思います。ありがとうございました。

○司会 これを受けまして、山本町長、いかがでしょうか。

○山本町長 今、親との情報交換とか親のストレスの発散場というか、情報交換する場が大切ということでした。大山崎町としても、ママ市をされてる中で、大山崎町のファミリーサポートセンターとか病児保育ができたとかの、周知の場、情報交換ができる場にしていただければと思います。そういった意味からしましても、これからママ市と一緒に、子育て環境をもっともっと広げていければと思いました。

○西脇知事 私は選挙中から「子育て環境日本一」を目指すとっておりました。しかし具体的に考えれば考えるほど、出会い、結婚、妊娠、出産、子育て、教育、就労支援と、非常に幅広いということになり、私を本部長とする「子育て環境日本一推進本部」を立ち上げました。子育ての環境がいい、そこで産み育てたいなと思うというのは、実は全ての世代にとってもいい町なんじゃないかなということもわかってきたので、今の木戸さんのお話も参考にして、引き続きがんばりたいので、ぜひ御支援よろしくをお願いします。

○司会 ありがとうございました。

それでは、次に、大山崎小学校区子ども地域安全見守り隊代表の小泉伸吾さん、お願いします。

○小泉伸吾 地域安全見守り隊とからすると、実は、今後こうしたい、ああしたいということよりも、一番究極の願いは何も起こらないことなんです。特別何かをすることかそういう

ことではなくて、今現在の活動が結果的にはよくなっているのです、今後とも何も事故、事件が起こらないことを願うというのが今後の願いというか、そういうことです。

実はこの大山崎町は非常に便利な町でして、交通の便、電車もそうですけども、全てアクセスがいいので、家もたくさん建ったりとか、住みたい町になってきていると思います。ですので、どうしてもいろんな方が入ってこられます。あんまり言うのもあれですけども、不審者みたいなことも今後出てくるかもしれないので、地域の方々たちと連携しながら、今後も、安全な町大山崎にしていきたいなと思っております。

以上です。

○司会 ありがとうございます。山本町長、いかがでしょうか。

○山本町長 何も起こらないのが一番理想、確かにそのとおりで、大山崎町内に犯罪者が入らないような形、車が流入しないような形というのは、今後もしていかないといけないのかなと。国道が渋滞したら、生活道路がある町内にはかなり車が入ってきますので、その生活道路に入らない仕組みも、今後考えていかないといけないのかなと思っております。昨年度、防犯カメラの設置を大山崎町で初めてさせていただきました。カメラがいい悪いもあるのかもしれませんが、やはり抑止効果としてすごく防犯対策につながってるんだと思っておりますし。シルバーさんも含めて、大山崎町として子供をどう見守るのかというのも、今後、またいろいろと情報共有しながら検討できればなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○西脇知事 ありがとうございます。安全な町と言われて本当によくわかります。何も起こらないのが一番いいと。ただ、いろんなことが可能性としてはありますし、本当にきめ細かい安心安全というのは、町長さんをはじめ、町の方、住民の方が一体として行うことが一番監視の目が行き届くんだと思えます。

もし、京都府として御協力することがあれば、町長に言っていただければ、私どもも全面的に支援をしたいと思えます。安心安全が全ての基礎なので、それによって全てが始まるということには全く同感でございます。活動に対して敬意を表したいと思えます。引き続き、頑張ってください。

○司会 知事、ありがとうございました。

次に、大山崎中学校フェンシング部顧問の富岡菜採さん、お願いします。

○富岡菜採 現在のような取り組みを継続していくことと、より多くの子供たちにフェンシングの楽しさを知ってもらうこと、世界で活躍する選手を大山崎から育成していくこと、そうしたことが大切かなと思えます。小学3年生でフェンシング体験はするものの、実際に中学校でフェンシング部に入る子というのは初心者がほとんどですし、人数もまだまだ少ないです。せっかくいい環境があるんですけども、まだ吸い上げられてないという部分があります。例えば、小学校に指導者を置いてフェンシングの授業を行ったり、中学校を

拠点にクラブチームをつくって、小中高と育成する体制であったり、そういったことができれば、より普及・育成につながるかなと思っています。

ただ、フェンシングはマイナー競技ということで、指導者も非常に少ないのが現実です。現在、活躍してくれてる選手たちが大人になって戻ってきて指導してくれれば、すごくありがたいと思います。指導者を増やすことであったり、場所とか道具という問題もまだまだありますので、そういった面をさらにどうしていけるかというのを考えたいなど。

あとは、乙訓高校ではフェンシングの授業があるということなのですが、今現在、私がおりますので、中学校でもフェンシングの授業して、フェンシングの駆け引きの部分、あるいは礼儀の部分というのを全員に指導できたら、すごく楽しいといえますか、いいことだなと感じたりもしております。

これから、町のみならず、府の力もお借りいたしまして、よりフェンシングを盛り上げていけたらと思います。皆さん、よろしく願いいたします。

○司会 頑張ってください。では、今のお話を受けて、山本町長、そして西脇知事、いかがでしょうか。

○山本町長 小学校では3年生が体験してますが、半日なので、剣を握ってるというものの、なかなか長い時間の経験ができてません。小学校でもクラブ授業というのがあるんですけども、まだちょっとフェンシングをするまでには至ってない。指導者が本当に不足してるということなんですけども、今年度、大山崎町の職員もフェンシングを経験してる子が1人いましたので、その子の活用も含めて、やっていかないといけないかなと思っています。多分、今日、教育長が来ておられますが、中学校でも授業に取り組みたいという思いがあります。大山崎町をフェンシングの町として、裾野を広げていければなと思いますので、京都府さんの協力も得ながらできればと思っています。

○西脇知事 やっぱりスポーツというのは、その種目が強いとか楽しいだけじゃなくて、町全体を盛り上げる力があると僕は思います。

たまたま来年は、ラグビーワールドカップで、2020年東京オリンピック・パラリンピック、その次の年がワールドマスターズゲームズ2021関西と、「ゴールデン・スポーツイヤー」と言われています。そういうことを契機に、スポーツを盛り上げようというので、今、亀岡に京都スタジアムつくってます。箱物をつくるだけではないんですけども、スポーツを通じて盛り上げるということは、特に青少年の健全育成からも非常に重要だと思っています。

私が高校のとき、剣道か柔道が必修になりまして、我々の高校は剣道だったんです。1年間、高校の授業だけでも剣道をやれば、初段ぐらいの腕になったんと違うかと先生に言われたことがありました。ある程度、経験すればその子の体に絶対残りますので、選手として育てていくには、小学校の体験で半日といわず、もう少しやってもらったらええんと

違うかなと思いますけど。どうもありがとうございます。

○司会 ありがとうございます。

次に、これから取り組みたいこと、展望ということで、大山崎町青少年健全育成協議会会長、江下傳明さん、お願いします。

○江下傳明 ここに書いてあるんですけども、大人が変われば子供も変わる。これは全国の育成団体のスローガンなんですよね。子供たちは大人の背を見て育っていくんですよね。これは家庭で考えれば、親の背中を見て育ちますし、会社で言えば、上司の背中を見て仕事を覚えていくとか。ですから、子供たちが健全に育っていくというのは、やっぱり我々大人が変わらなければいけないという、そういうスローガンなんです。

今の世の中、これと反対のニュースが非常に多いですね。やっぱりトップに立つ、例えば上層部に立ってる人たちは、上になるほど謙虚になって物事を判断をしないとイケない。これが子供たちを育てる一番の要なんですよね。だから、大人が変われば子供も変わる。これはもうそのとおりなんです。

今の世の中、「我が我が」がまかり通ってるところが非常に多いんですけども、そうじゃなくて、一步引いて、感謝の心を持って、そして子供たちを育てていく。これが一番の姿勢じゃないかなということで、我々大人がそういう気持ちを持って子供に接していくことが、これから10年、20年、育っていく子供たちのために必要だと切に願っております。

○司会 ありがとうございます。今のお話を受けて、お二方、いかがでしょうか。

○山本町長 大人が変われば子供も変わるというのは、本当に共感できることです。今、子育てを中心に話をしてますけども、やはり子供を中心としたまちづくりをしていければなと思っております。年配の方を無視するとかではなくて、年配の方々も、子育てに関する居場所づくりというのを考えていかないといけません。子供を中心としたまちづくりで、にぎやかにして、皆さんを支えていける町になればいいなと思います。大人が変われば子供も変わるというようなスローガン、本当に共感しますし、それに向けて私たちも頑張ればなと思います。

○西脇知事 江下さんのお話は奥が深いので、私はコメントする資格があるのかなと思うんですけど、まず謙虚にならなアカんと。これは当たり前なんですけど、大人がルールを守るという姿を見せるというのは大事だというのが1つです。もう一つは、子供さんと親御さんとの関係だけで生活していると煮詰まってくるという、今、世の中で起こってる事件のかなりの部分がそういうふうなこともあります。近所の子でも、ちゃんと叱るときは叱るし、褒めるときは褒めるし、一緒に遊ぶという、まさに地域で子供を育てるということをやってもらった方がありがたいと思う親御さんも結構、増えてきているという話も聞きます。ぜひとも引き続き、健全育成に協力していただいて、一緒になって頑張りたいと思います。どうもありがとうございました。

○司会 ありがとうございます。

最後になりました。ダイハツ工業株式会社京都工場ダイハツ労働組合京都支部長、桂雅彦さん、お願いいたします。

○桂雅彦 今もいろんな方がお話しされてて、大山崎は非常に道が狭いということで、ダイハツの軽が愛用されるのかなと。ダイハツの車かスズキの軽をどっち買おうかなと思ったときに、ぜひダイハツの車を選んでいただいたら。45年経った工場もついに建てかえの時期がやってきまして、リファインさせていただくことが決定いたしました。あと30年、40年は、この地域で必ず残っていけるということを確認していますので、皆さんのご理解をいただいて、共にやっていきたいと思っております。

また、先ほどから子育てのお話をたくさんいただいておりますが、ダイハツ工業に入って働きたいという人、ここにこんな立派な魅力のある会社があるのなら働きたいという人を1人でも増やして、皆さんの力を借りながら、この地域にしっかりと残っていきたいなと思っておりますので、今後とも御理解と協力をよろしく申し上げます。

○司会 ありがとうございます。今のお話につきまして、山本町長、いかがでしょうか。

○山本町長 やはり、ダイハツ工業がこの大山崎町の地にあるということで、大山崎町にとってもすごく恩恵があります。法人税を納めていただいていることもあります。大企業にかかわらず、中小企業ともしっかりと連携ができればなど。今まで行政は、企業さんとの連携というのは敬遠してたところがあるんですけども、大山崎町に恩恵をもたらしていただいている企業さんと課題を共有しながら、行政としてできることは何かあるのか、京都府さんとも連携をしながらやっていければなど。

特に、ものづくりというのは、これからの子供にはすごく大事になると思いますので、ものづくりに関しましても、もっともっと積極的に大山崎町として関わるようにできればなど。そうすることによって、ダイハツ工業に就職しようとか、ものづくりに携わりたいからと町内の企業に入ってもらえるような仕組みもできればと思います。また、いろいろと情報共有しながら、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○西脇知事 ダイハツさんが、まさに大山崎町のダイハツとして引き続き頑張っていきたいという、これは非常に重たいというか、ありがたい言葉です。そういうふうな意識を持っていただいている限り、地域の住民とか地域の行政との連携というのは、必ずうまくいくと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

それから、町長がおられますので申し上げますと、私は初登庁のときに、「現場主義」と「前例にとらわれない」と、3つ目に「連携にこだわること」と言ひまして、府庁職員に向けては縦割りを廃止したんです。京都府にとっては、国と京都府と府内の市町村との連携なんですけど、これほど高速交通体系とか交通網が発達しますと、隣接する府県との連携も必要になってくるんです。その場合、何が一番大切かと言ひますと、京都府と府内の



市町村が同じ方向を向いてるということが重要なんです。

ということは、隣接する自治体、例えば大阪府と交渉したいけど、市と町、町同士で交渉することが出来ない場合には、府が乗り出していくとか。あと、まちづくりだって、きめ細かで重要なまちづくりは、ほとんど町がやっておられるんですけど、府の施設もあれば、国の施設もあるというときに、方向が違うというのが一番だめ。それで結局、誰が損害を被るかという、これは住民の方なんです。

そういうことを念頭に置いて、一緒になって仕事をしていくということが、非常に重要かなと思います。行政には、いろんな仕事のレベルがあるんですけど、いずれにしても同じ方向で頑張るということで、ぜひとも町長にもよろしくお願ひしたいなと思います。

○司会 ありがとうございます。今日は本当にたくさんの町民の方が来ておられます。町長、一言いかがですか。

○山本町長 先ほど、知事からすごく心強いお言葉をいただきました。

今日、ここにおられる皆さんとともに、京都府と連携をしながら、国とも連携をしながら、まちづくりの発展に寄与していければなと思っております。今日は、西脇知事の人となりを見ることができたのではないかなと思ってます。ざっくばらんに、本当に皆さんとともに、目線を合わせて話される知事だということを私もすごく感じていますし、今日、来られた方も感じていただけたらなと思っております。

ということで、多分、今日のお話は全て受けてもらって、しっかりと大山崎町を見て、これからも京都府での仕事をしてもらえるのではないかなと私も感じました。これからも共に一緒になって頑張っていければなと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○司会 知事、これだけお褒めの言葉がありました。最後一言、やはり知事に締めていただきましょう。

○西脇知事 これが第1回目でございます、今日のこの議論がこれからの「行き活きトーク」のベースになると思います。非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。短時間で申しわけなかったんですけども、皆さん今日は、御出席いただきまして本当にどうもありがとうございました。

○司会 ありがとうございます。

それでは、会場の皆様、パネリストの5人の皆様、そして山本町長、西脇知事にいま一度、大きな拍手をお願いします。ありがとうございました。

これをもちまして、第1回「西脇知事と行き活きトークin大山崎町」を閉会とさせていただきます。皆様、最後までおつき合ひいただきましてありがとうございました。